



Title	Gallia 62号 会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2023, 62, p. 121-130
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/91105
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

会員研究活動報告

(2022 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

エリック・アヴォカ

- 共著 ・『作家たちのフランス革命』（三浦信孝編・著，白水社，7 月）〔本人担当：「フランス革命の一大叙事詩劇， ロマン・ロラン『フランス革命劇』」（三浦信孝訳）p. 163-194, 「フランス革命と文学」瞥見（翻訳：小野潮・三浦信孝）p. 228-242〕．
- 論文 ・ La représentation politique et ses mystères, dans le théâtre de la Révolution française : Entre rôle dramatique traditionnel et rôle politique nouveau (*Gallia*, n°61, p. 49-61, mars)
- ・ Tribune grecque, tribune romaine. Représentation politique et action oratoire dans le théâtre de Marie-Joseph Chénier (*Les Lumières du théâtre. Avec Pierre Frantz, Renaud Bret-Vitoz, Sophie Marchand* (dir.), Éditions Classiques Garnier, p. 305-313, septembre)
- 口頭発表 ・ Enseigner(par) la littérature dans les cours de français à l'université (日本フランス語フランス文学会，秋季大会ワークショップ（主催），大阪大学，10 月)

足立 和彦

- 論文 ・ 見えないものを見る：モーパッサンの幻想小説（*STELLA*, n° 41, 九州大学フランス語フランス文学研究会，p. 289-298, 12 月）
- 書評 ・ イヴァン・ジャブロンカ『歴史家と少女殺人事件 レティシアの物語』（真野倫平訳，名古屋大学出版会，2020 年）（『研究論集』，日本フランス語フランス文学会中部支部，n° 45, p. 125-128, 1 月）
- 雑誌記事 ・ モーパッサン、自由を求めて（第 1-9 回）（『ふらんす』，4-12 月号，各回 4 頁，4-12 月）
- ・ フランス怪談選手権〔古典編〕一番怖～いのは誰だ！？（『ふらんす』，12 月号，p. 4-7, 12 月）
- 口頭発表 ・ Maupassant dans l'enseignement secondaire : le cas du Japon (Colloque international, *Maupassant, auteur pour la jeunesse ? Adapter, éditer et enseigner les œuvres de Maupassant*, Amiens citadelle, 2 mars)
- ・ 自然主義から離れて：1880 年代後半のモーパッサン（京都大学人文学研究所 共同研究「ポスト＝ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義」第 7 回例会，京都大学，3 月 19 日）
- 講演 ・ モーパッサン、伝記の諸問題（日本フランス語フランス文学会 中国・四国支部大会，海峡メッセ下関 国際貿易ビル 8 階，12 月 10 日）

安達 孝信

- 博士論文 ・ Poétique de la banlieue dans les premiers romans de Zola : De *La Confession de Claude* à *Madeleine Férat* (Université Paris III, mars)

- 論文 ・ 普遍的友愛と労働讃歌：ゾラのペンスクール再発見（1868 年）（*Gallia*, n° 61, p. 61-74, 3 月）
 ・ ゾラにおける修道院・女子寄宿学校の社会空間：『マドレーヌ・フェラ』における形成の場（『フランス語フランス文学研究』, n° 120, p. 35-50, 3 月）
- 共訳 ・ ミシエル・ウエルベック著『ウエルベック発言集』（西山雄二・八木悠允・関大聡・安達孝信共訳, 白水社, 11 月）[本人担当：p. 213-217, 231-299, 311-336]
- 口頭発表 ・ 初期ゾラと二つの郊外：伝記的アプローチから（自然主義研究会, オンライン, 6 月 3 日）
- 安藤 麻貴
- 口頭発表 ・ アトリエ『ブチ・ニコラ』Ⅲ（野呂康氏、平松英夫氏との共同発表, 日本フランス語フランス文学会中国・四国支部大会, 水産大学校, 12 月 10 日）
- エッセイ ・ いとしのソフィー（『ゆうばえ』第 15 号, 鳴滝書房, p. 38-40, 8 月）
- 石井 啓子
- 翻訳 ・ スタール夫人『三つの物語』（幻戯書房, 8 月）
- 岩根 久
- 口頭発表 ・ Pierre de Ronsard (1524-1585) の Les Amours (1552) と Les Amours (1553) における綴り字の相違について（テキストマイニングとデジタルヒューマニティーズ研究会, 大阪大学, 8 月 5 日）
- 講演 ・ 学のかたち（退職記念講演会, 大阪大学大学院人文学研究科言語文化学専攻, 大阪大学会館アセンブリー・ホール, 7 月 1 日）
- 上江洲 律子
- エッセイ ・ 父の散歩（『ゆうばえ』第 15 号, 鳴滝書房, p. 25-26, 8 月）
- 柏木 加代子
- 論文 ・ Le Château des cœurs, Genèse et Structure (François Vanoosthyse, [Première publication : Site Flaubert, 2016] , septembre)
 ・ Le Château des cœurs en son siècle: la confrontation de l'humain et de l'automate (Hélène Hôte, [première publication : Site Flaubert, 2022] , septembre)
- 翻訳 ・ ジャンヌ・ベム著『フロベールと〈ジェンダー〉 クィアな家族から「新しい女」へ』（水声社, 12 月）
- エッセイ ・ 東京オリンピック 2020—令和の黙示録—（『ゆうばえ』第 14 号, p. 89-91, 鳴滝書房, 3 月）

- | | |
|-------|--|
| 口頭発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・ あいつにそんな余裕はない (『ゆうばえ』 第 15 号, p. 15-17, 鳴滝書房, 8 月) ・ Japon : tout y est en porcelaine. <i>Flaubert, le Japon et le japonisme</i> («Flaubert en images». Colloque du bicentenaire de la naissance de Flaubert des 12, 13 et 14 décembre à la Fondation Singer-Polignac, Paris, 14 décembre) |
| 柏木 隆雄 | |
| 共著 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 光と影の鮮やかな演出—バルザック『暗黒事件』(三浦信孝編『作家たちのフランス革命』, 白水社, p. 77-106, 7 月) |
| 論文 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 西洋の言葉は日本で、誰が、いつ花開かせたのか (『国際的「知」を求めて—大手前大学国際日本学部新設記念シンポジウム—』, 大手前大学, p. 6-7 及び p. 10-13, 1 月) ・ <i>Les Scènes de la vie privée et publique des animaux</i> — Exemple d'une collaboration éditoriale : Hetzel, Grandville et Balzac (<i>L'Année balzacienne</i>, décembre) |
| 評論 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 松坂の知の系譜 本居宣長, 小津久足, 小津安二郎 (『夕刊三重新聞』 1 月 8 日より 12 月 24 日まで毎週土曜日一面掲載, 以下続稿) 21. 宣長の実証主義示す 22. 『菅笠日記』に宣長の本領 23. ついに水分神社に到達 24. 学者の自覚を生む旅 25. 宮滝の荒業を活写 26. 息子春庭の病を記す 27. 宣長の子, 皆新春生まれ 28. 宣長の評伝『やちまた』 29. 春庭の誕生, 日記に詳しく 30. 春庭の眼疾のいきさつ 31. 家督放棄を考えた春庭 32. 42 歳で『詞の八衢』に着手 33. 『詞の八衢』の由来 34. 春庭が受けた眼の治療 35. 言葉の活用, 飽きぬ魅力 36. 父宣長の文法論を補完 37. 言葉の活用を論じる 38. 学習参考書に生きる春庭 39. 『詞の八衢』に感激した義門 40. 大平と春庭による序文 41. 『詞の通い路』は思索の書 42. 西洋文法とは別の原理 43. 春庭の私塾 門弟急増 44. 春庭は歌人として盛名 45. 千鰯問屋と小津家 46. 本居家の祖先の話 |

	47. 教え子らと松阪散策 48. 西荘文庫と小津家秘蔵 49. 湯浅屋小津家の系図 50. 久足の大叔父, 理香 51. 理香の伝記は家の宝 52. 湯浅屋の家督継承 53. 久足とルソー 境遇似る 54. 養子徒好の微妙な立場 55. 久足 19 歳で小津家継ぐ 56. 何故父の再婚に反対? 57. 継母にひそかな思慕? 58. 久足年 3500 首詠んだ 59. 久足少年の歌の作風 60. 久足十五才の和歌三首 61. 十五歳で詠んだ恨む恋 62. 別るる恋と隔つ恋 63. 壮年期の久足の詠草 64. 四季それぞれの恋の歌 65. 風流を好むと自身評す 66. 教え 19 歳の旅の歌
書評	・ Takayuki KAMADA, <i>Balzac Multiples genèses</i>, Presses universitaires de Vincennes, coll. «Manuscripts Modernes», 2021 (<i>Cahier</i>, n° 29, Société japonaise de langue et littérature française, p. 18-21, mars)
エッセイ・ 新聞記事	・ 断捨離の中の映画リスト (中村啓佑発行『花だより 人だより』, n° 39, p. 1-2, 3 月) ・ 学生時代に読書を (『大阪日日新聞 Voice』 2022 年 3 月 17 日号掲載) ・ キュービーのおっちゃん (『ゆうばえ』 第 14 号, 鳴滝書房, p. 33-36, 3 月) ・ わが一日 (『ゆうばえ』 第 15 号, 鳴滝書房, p. 20-23, 8 月) ・ 三重同工会の令和 4 年 (『赤壁』 第 94 号, 三重同工会, p. 2-3, 9 月) ・ 「口上」, 「やそしま」の十五年, 「編集後記」 (『やそしま』 最終第 16 号, 上方文化芸能協会, p. 73-115, 12 月)
口頭発表・ 講演	・ 昔のお金 今のお金 (芦屋市消費者協会総会講演, リード芦屋, 3 月 8 日) ・ 文学に現れたフランス革命 (三重日仏協会, 放送大学三重学習センター共催, 三重県総合文化センター文化会館, 4 月 10 日) ・ バルザックとフランス革命 (関西バルザック研究会, 近畿大学, 8 月 27 日) ・ 八栗寺梵鐘と会津八一 叱る教師の真実 (令和 4 年度「讃岐村塾」, 高松菊池寛記念館, 9 月 23 日)

金崎 春幸

論文

- ・『聖アントワヌの誘惑』におけるエジプトの神々 (*Gallia*, n° 61, p. 51-60, 3 月)

書評

- ・Gustave Flaubert, *Cabane fantastique, édition diplomatique de la deuxième version (1856) de La Tentation de saint Antoine*, édition et introduction par Atsuko Ogane, Droz, 2021 (*Cahier*, n° 29, 日本フランス語フランス文学会, p. 16-17, 3 月)

川上 紘史

論文

- ・ピエール・ニコルにおける神の存在の自然の証拠—「神の存在と魂の不死の自然の証拠についての簡略な議論」に基づいて (*Gallia*, n° 61, p. 13-24, 3 月)
- ・パスカルにおける認識の多様性と視覚イメージの結びつき (『フランス語フランス文学研究』第 121 号, 日本フランス語フランス文学会, p. 3-19, 8 月)

口頭発表

- ・La diversité de la connaissance et l'image optique chez Pascal — dans la *Préface sur le traité du vide* (Journée d'études du CEIPREM, structure fédérative de recherche de la Sorbonne nouvelle — Paris 3, Maison de la recherche de la Sorbonne Nouvelle, en ligne, 8 juin)

北村 卓

共著

- ・『実用フランス語技能検定試験 2022 年度版 3 級・4 級・5 級仏検公式ガイドブック』(フランス語教育振興協会編, 駿河台出版社, 2020 年度秋季 4 級・5 級担当, p. 156-182, p. 280-301, 4 月)

論文

- ・ボードレールの「異邦人」とカミュの『異邦人』: タイトルの日本語訳をめぐって (大阪大学大学院人文学研究科「言語文化共同研究プロジェクト 2021」『表象と文化 XIX』, p. 37-46, 5 月)

小坂 美樹

論文

- ・メナルク像の継続と変遷—アンドレ・ジッドとウージェーヌ・ルアール— (*STELLA*, n° 41, p. 75-92, 12 月)

篠原 学

論文

- ・ミラン・クンデラの小説実践における「近代」(大阪大学大学院人文学研究科「言語文化共同研究プロジェクト 2021」『表象と文化 XIX』 p. 68-77, 5 月)

- エッセイ
- ・連載「スタイルメイト」(『ふらんす』白水社, 4-9月号)
第1回「言語との相似を夢見て」p. 58-59, 4月
第2回「文学と「まじめな遊戯」」p. 58-59, 5月
第3回「ある「あやうさ」への感性」p. 58-59, 6月
第4回「遊戯およびテキストの二つのベクトル」p. 58-59, 7月
第5回「「人間」のドラマを離れて」p. 58-59, 8月
第6回「他者へとひらかれて, 読む」p. 58-59, 9月
- 口頭発表
- ・堀辰雄「小説のことなど」内容紹介(将棋と文学研究会, オンライン, 5月21日)
 - ・創造と恋愛—バルザック『知られざる傑作』を読む(2022年度 大阪大学外国語学部 マンスリー多文化サロン, 大阪大学, 12月15日)
 - ・チェスプレイヤーは何をするのか? —「スタイルメイト」と文学の制作(科学研究費 基盤研究 (B)「一般リズム学」を地平とする統合的思想史の構築(代表者: 中島隆博)主催, 東京大学, 12月16日)
- 高岡 尚子
- 論文
- ・ジョルジュ・サンド『愛の妖精』にみる「ケア」の様相とその意味(奈良女子大学文学部欧米言語文化研究会『欧米言語文化研究』第9号, p. 143-162, 12月)
 - ・ユートピアを語る文学の中のジェンダーとセクシュアリティ(『福音と世界』特集=ユートピア再訪, 新教出版社, 2022年5月号)
- 口頭発表
- ・「ケア」を描く文学の向こう側—女性の乳房・授乳の描き方ととして(奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター「レクチャー・シリーズ」第1回, オンライン, 11月11日)
- 高橋 愛
- 共訳
- ・アラン・コルバン編『雨、太陽、風 天候にたいする感性の歴史』(小倉孝誠監訳, 小倉孝誠・野田農・足立和彦・高橋愛訳, 藤原書店, 8月)
- 解説記事
- ・ドレフュス事件, 真実と正義の闘い その史実について(映画『オフィサー・アンド・スパイ』パンフレット, 東宝, p. 10-11, 6月)
- 武田 裕紀
- 論文
- ・デカルトにおける解析—パッポスとクラヴィウスを通した予備的考察—(『基盤教育論集』第9号, p. 33-62, 3月)
- 口頭発表
- ・デカルト『幾何学』と方法——『規則論』から『方法序説』へ(京都哲学史研究会, 4月11日)
 - ・パスカルにおける数の秩序(京都哲学史研究会, 10月9日)

堤崎 暁

口頭発表

- ・ ジョルジュ・サンドの政治・社会思想：その萌芽と深化（2022 年度日本ジョルジュ・サンド学会春季研究会, 立教大学, 6 月 4 日）
- ・ ジョルジュ・サンド『黒い町』における上昇志向（日本フランス語フランス文学会関西支部大会, 関西大学, 11 月 26 日）

寺本 成彦

論文

- ・ ロートレアモンの読者、プニュエル＝ダリ―『アンダルシアの犬』におけるフェルメール『レースを編む女』のショットをめぐって（『ヨーロッパ研究』第 16 号, 東北大学大学院国際文化研究科ヨーロッパ研究会, p. 17-26, 3 月 30 日）

エッセイ

- ・ プラハから来た“白い恋人たち”（『別冊 シャンソン・フランセーズ』02, シャンソン研究会（オンライン出版）, p. 12-13, 7 月）
- ・ コロナ下の大学院教育—中間報告、あるいは私的備忘録（『GLOBE（国際文化研究科 広報）』n° 35, 東北大学大学院国際文化研究科, p. 3, 10 月）
- ・ 映画をめぐる自由と不自由（『コア』第 284 号, 東北大学職員組合書記局, p. 4, 11 月）

中村 啓佑

論文

- ・ フォワールの変遷—定期市から遊園地へ II 19 世紀中葉から 20 世紀初頭まで（*Gallia*, n° 61, p. 85-95, 3 月）

濱田 明

共著

- ・ 『一筆啓上漱石先生』（くまもと漱石倶楽部編, 弦書房, 10 月）[本人担当：「漱石とパリ、フランス」p. 41-43]
- ・ 『アイラヴ漱石先生』（NPO 法人くまもと漱石文化振興会熊本大学文学部附属漱石・八雲教育研究センター編, 集広舎, 4 月）

講演

- ・ 『文鳥』—文鳥がもたらした世界（NPO 法人くまもと漱石文化振興会, 漱石九日読書会—書籍『アイラヴ漱石先生』より, 熊本市市民会館, 11 月 19 日）

林 千宏

論文

- ・ 「図像」の変遷：『カンツォニエーレ』から『愛のエンブレム』へ（大阪大学大学院人文学研究科「言語文化共同研究プロジェクト 2021」『表象と文化 XIX』, 言語文化共同研究プロジェクト, p. 13-24, 5 月）

口頭発表

- ・ Le temps dans *La Bergerie* (1565) de Remy Belleau (Atelier franco-japonais organisé par Org. Aya Iwashita et Anne-Pascale Pouey-Mounou, en ligne, 11 juin)

エッセイほか

- ・フランス・ルネサンス期における「作品集」の編纂—レミ・ベローの『牧歌』1565年版および1572年版を通して—（大阪大学言語文化学会, 10月27日）
- ・連載「フランス語ものづくり」（『ふらんす』白水社, 4-12月号）
 - 第1回「パン」p. 1-2
 - 第2回「チーズ」p. 1-2
 - 第3回「交通機関」p. 1-2
 - 第4回「テーブルウェア」p. 1-2
 - 第5回「ビン、グラス」p. 1-2
 - 第6回「文房具」p. 1-2
 - 第7回「カフェ」p. 1-2
 - 第8回「椅子」p. 1-2
 - 第9回「クリスマス」p. 1-2
- ・解説『きこえたまま』ではない世界で（斉藤洋『黒と白のあいだで翔の四季 秋』, p. 174-175, 9月）
- ・解説『こえてくる者』に耳をかたむけ、目をそらさないこと（斉藤洋『こえてくる者たち 翔の四季 冬』, p. 174-175, 12月）

春木 仁孝

論文

- ・現代フランス語のlaの機能について（『時空と認知の言語学 XI』大阪大学大学院人文学研究科, ウェブ出版, URL: <https://doi.org/10.18910/88373>, p. 39-48, 5月）

本誌60号、61号に掲載した春木仁孝会員の報告に誤りがございました。お詫びして訂正いたします（編集担当）。

第60号p. 128

論文

- ・誤：『表象と文化 XVII』, p. 21-30, 7月
→ 正：『時空と認知の言語学 IX』, p. 21-30, 7月

第61号p. 138

論文

- ・以下は（上記の誤りを含む）前年分の報告の重複掲載のため削除
『擬似引用マーカーあるいは発話連結辞としての genre（大阪大学大学院言語文化研究科「言語文化共同研究プロジェクト2019」『表象と文化 XVII』, p. 21-30, 7月）

平光 文乃

共著

- ・『装飾の夢と転生 1』（白田由樹・辻昌子編著, 国書刊行会, 10月）
[本人担当：「マルセル・ブルーストの作品における室内装飾と芸術創造」p. 273-315] .

口頭発表

- ・『見出された時』冒頭に関する一考察（関西ブルースト研究会, 大阪大学, ハイブリッド, 4月2日）

三原 大輝

草稿転写

- ・Liasse «Soumission» (V) (séminaire Pascal, Maison des Sciences de l'Homme 4 rue Ledru, Clermont-Ferrand, 1 avril)

山上 浩嗣

単著

- ・『モンテーニュ入門講義』（ちくま学芸文庫, 448p., 3月）

口頭発表

- ・ La politique et la morale chez Montaigne et Pascal. Le respect de la loi, même injuste, et l'aversion pour la réforme politique (Journée d'études du CEIPPREM, structure fédérative de recherche de la Sorbonne nouvelle — Paris 3, Maison de la recherche de la Sorbonne Nouvelle, 8 juin)
- ・ モンテーニュが語る老、病、性——『エセー』における身体を経験 (2022 年度ラスタ教養大学 言葉文化コース, 伊丹ラスタホール (伊丹市立生涯学習センター), 11 月 14 日)

山本 健二

論文

- ・ Genèse et originalités des poèmes en prose du premier Verlaine (*Gallia*, n° 61, p. 75-83, 3月)

口頭発表

- ・ 初期ヴェルレーヌが探求した韻文詩における「新しさ」について (第 88 回大阪大学フランス語フランス文学研究会, 大阪大学, 3月5日)

和田 章男

共著

- ・『ブルーストと芸術』（吉川一義編, 水声社, 4月）[本人担当: 「ブルーストと昔日の音楽」 p. 61-80]

論文

- ・ Proust et la critique nervalienne (*Revue Nerval*, n° 6, Classiques Garnier, p. 119-134, avril)
- ・ La réception de la musique et l'«humanisme» chez Proust (*Bulletin d'informations proustiennes*, n° 52, p. 193-203, octobre)

書評

- ・『ブルーストの音楽』—ブルーストと音楽をめぐる最新研究の動向 (*STELLA*, n° 40, p. 83-92, 2021 年 12 月)

口頭発表

- ・ブルーストと音楽についての研究動向 (関西ブルースト研究会, 大阪大学, 4月2日)
- ・ブルーストのオペラ受容—人間的、あまりに人間的 (青山学院大学総合研究所共同研究プロジェクト「19・20 世紀フランス文学とオペラ」, オンライン, 4月9日)
- ・ドビュッシー『ベレアスとメリザンド』を「聴く」ブルースト—記憶と創造 (大阪大学人文学研究科教育研究フォーラム, 大阪大学, 10月20日)
- ・ブルーストとセザール・フランク——エリートと大衆 (日本ブルースト研究会, 大阪大学, 10月22日)

涌井 萌子

論文

- ・ Les mazarinades de Cardinal de Retz dans l'espace public au XVIIe siècle (*Gallia*, n° 61, p. 3-11, mars)

- | | |
|--------------|--|
| 口頭発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・レ枢機卿の「もっともらしさ la vraisemblance」—マザリナードにおける自己表象（『関西フランス語フランス文学』, 第 28 号, p. 3-13, 3 月） ・マザリナードと公衆—レ枢機卿のマザリナードを例に（『待兼山論叢』, 文学篇, 第 55 号, p. 55-69, 3 月） ・レ枢機卿の英雄観—寛容 magnanimité をめぐって（第 88 回大阪大学フランス語フランス文学研究会, 大阪大学, 3 月 5 日） ・レ枢機卿の自己表象—マザリナードと『メモワール』を比較して（日本フランス語フランス文学会春季大会, 立教大学, 6 月 4 日） |
| 渡辺 貴規子
論文 | <ul style="list-style-type: none"> ・明治時代後期の少女向け読み物におけるジャンヌ・ダルクの伝記：ヒロイン像の変容をめぐって（言語文化共同研究プロジェクト 2021, 『言語文化の比較と交流 9』, p. 1-10, 5 月） |
| 口頭発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・大正期の少女雑誌におけるフランス小説の受容—グザヴィエ・ド・メーストル原作『シベリアの少女』の翻訳をめぐって（日本児童文学学会第 61 回研究大会, 宮城教育大学, 11 月 20 日） |